

## 令和 2 年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの業務実績に係る 評価委員会の意見について（案）

令和 2 年度における地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの業務については、「概ね着実な業務の進捗状況にある」と認められる。評価の決定に際しては、次の点について留意されたい。

- ・ 病院部門では、高齢者の特性に配慮した「治し支える医療」の実現に向けて、重点医療を中心に、的確に取り組んでいる。今後は、都民が安心できる医療提供体制を確保するため、院内の感染防止対策を更に徹底し、高齢者の急性期医療を担う病院としての役割を果たしていくことが求められる。
- ・ 研究部門では、高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究について、今後の膵臓がんの治療法やサルコペニア予防・治療法の開発につながる成果を上げるなど、第三期中期計画の達成に向けた取組が着実に進められている。また、研究支援組織によって知的財産活動を一層推進している。引き続き、病院と研究所を一体的に運営する法人の特長を生かし研究を推進するとともに、研究成果の社会への還元を期待する。
- ・ 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症への対応において、病床の一部を休止しながらも、地域の医療機関等と連携し積極的に患者の受入れを行ったほか、近隣の医療機関からの重症患者に対し E C M O 治療等を提供した。また、東京都が運営する宿泊療養施設への看護師派遣等に取り組み、公的医療機関としての役割を果たした。加えて、病院部門と研究部門が連携して P C R 検査体制を整備することで、コロナ禍における医療提供体制や研究実施体制を維持している。引き続き、法人全体が一丸となって新型コロナウイルス感染症対応に取り組むことを期待する。

また、第三期中期目標及び中期計画の達成に向けては、法人が次の取組を推進することを期待する。

- ・ 収入の確保に向け経営努力を重ねてきたが、コロナ禍における経営状況を踏まえ、特に病院部門において医業収入の一層の確保に向けた取組を強化するとともに、経営分析による業務の効率化や、ベンチマークシステムを活用したコスト管理を徹底して行い、更なる収支改善に取り組むことを求める。
- ・ 引き続き、東京都の公的医療機関として、新型コロナウイルス感染症対応に積極的に取り組むとともに、病院という人命を預かる機関であることを踏まえ、院内クラスターの再発防止に向けた感染防止対策の徹底を求める。

さらに、次期中期目標期間に向けて、より客観性のある評価指標を策定できるよう、検討を進めることが必要である。